

TAKABAYASHI WASAKU



生誕120周年

高林和作

《自画像》1960年代

サバクに立つ画家の眼差し

令和3年

2月13日|土|—3月21日|日|

休館日：2月15日(月)、2月16日(火)、3月16日(火) 開館時間：午前9時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

会場：さかい利晶の杜 企画展示室 観覧料：一般300円、高校生200円、小中学生100円 主催：堺市

※「千利休茶の湯館」「与謝野晶子記念館」の観覧券で企画展もご覧いただけます。

SAKAI
RISHO
NO
MORI

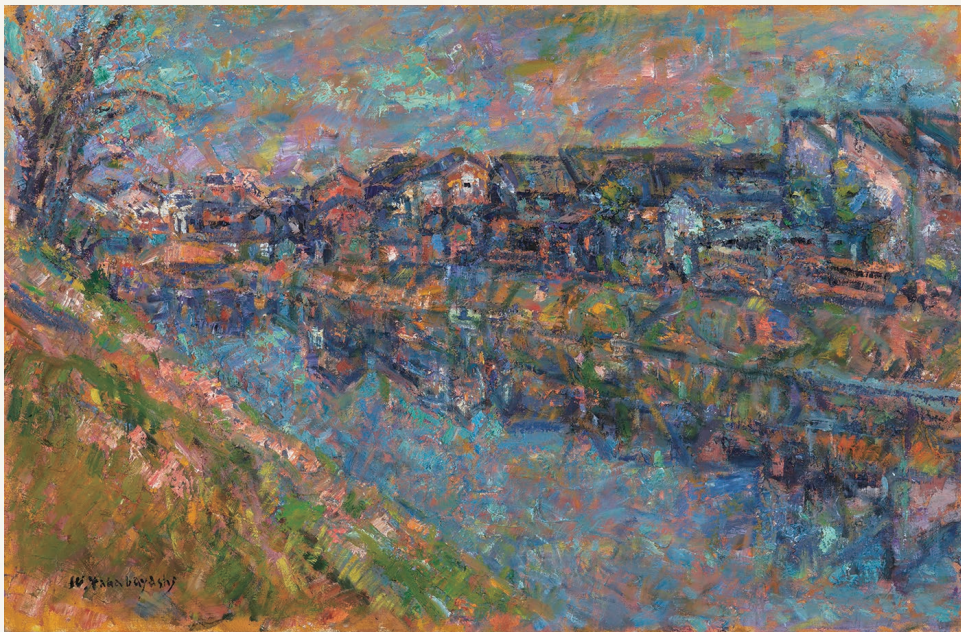
さかい利晶の杜

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

TAKABAYASHI WASAKU

120th anniversary of his birth

Vision of the painter in the desert



《河岸の秋》1960年頃



《港の春》1965年



《ジョワンビル風景》1930年



《中書島風景》1960年～65年



《材木河岸》1961年

作品は全て堺市博物館所蔵

高林和作（1900-1968）は、戦前から戦後を生きた堺出身の画家です。1928年にフランスに渡り、フォーヴィスムの流れをくむオトン・フリエスと、キュビズム以後の写実主義を代表するアンリ・ド・ヴァロキエに師事しました。帰国後は、京都を拠点に活動し、京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）の西洋画科で須田国太郎、黒田重太郎、川端彌之助らとともに教鞭をとりました。

高林が生きた時代は、日本において、西洋画の受容と日本的油絵の創成が模索された20世紀の美術の幕開けと重なります。多くの画家が独自のスタイルを切り開くなか、高林は、青を基調に色の対比を意識しながら、線描を重ねる作風を確立させていきます。この手法には、20世紀初頭にフランスで起こつ

たフォーヴィスムの影響がみとれます。

高林はフランスで学んだ時代から晩年にいたるまで、創作旅行や屋外制作を精力的に行い、多くの風景画を描きました。美術団体などに所属せず、個展や唯の公募展出品先である京都市主催美術展覧会（京展）を中心に作品を発表してきたため、これまで画業が広く紹介される機会は多くありませんでした。高林が世に出した全作品のうち3分の2は遺族から譲られ、出身地にある堺市博物館に収蔵されています。生誕120周年を記念する本展では、堺市博物館のコレクションの中から、高林和作の画業を紹介します。

ワークショップ 高林和作に挑戦! はんたいぬりえをしてみよう

高林和作が影響を受けた、フォーヴィスムの様式を使って塗り絵をするワークショップです。

開催日時：会期中随時

参加費：無料

会場：さかい利晶の杜 2階図書情報コーナー前（無料ゾーン）

*申込不要。

*説明書を見ながらご自身で制作を進めていただくワークショップです。各日、材料がなくなり次第終了します。

*一度のワークショップは6名までとなっております。

混みあっている場合は30分ごとの入替制となります。

関連展示 「高林和作と文人の世界」

高林和作が晩年に墨で描いた小さな画帖を紹介します。

会期：2月17日（水）～3月15日（月）

会場：さかい利晶の杜 千利休茶の湯館

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、変更・中止になる可能性があります。

鑑賞プログラム ひそひそおしゃべり

高林和作作品の魅力を発見する対話型鑑賞を行います。

開催日：2月20日（土）、3月7日（日）

時間：各日午前11時～/午後2時～（各回30分程度）

参加費：無料（事前に展示観覧券をお求めください。）

会場：さかい利晶の杜 2階企画展示室

定員：各回5名（先着）

対象：小学3年生以上

申込方法：1月4日（月）午前9時30分より申込開始。参加者氏名（ふりがな）、電話番号を明記の上、来館・電話・メール・FAXにてお申込みください。

TEL 072-260-4386

FAX 072-260-4725

メール event@sakai-rishonomori.com

関連動画 オンライン学芸トーク

～みなさんからの質問に答えます！～

学芸員が質問形式で本展を紹介する動画を、さかい利晶の杜HPで公開します。HPではその他にも展示解説や当館の見どころを紹介する動画をご覧いただけます。

